



平成22年6月30日

## 水の事故を防ごう!

～ 過去5年間の水による救急事故の発生状況～

去る6月19日、清瀬市内で、8歳の男児が川で溺れ、救助に当たった中学生が川岸に引き上げ、胸骨圧迫（心臓マッサージ）を約2分間実施したところ、男児の意識が回復した事案が発生しました。

東京消防庁管内で、過去5年間（平成17年から平成21年まで）の5月から9月までの5か月間に発生した水の事故（入水自殺は除く。）により、79人が医療機関に救急搬送されています。

当庁では、夏休みシーズンを前に、水による救急事故の発生状況を注視し、注意を促すなど、都民の安全確保に努めてまいります。

- 1 場所別にみると、「プール」では約49%、「河川」では約43%となっており、この2か所で溺水事故の9割を超え、73人が救急搬送されています。
- 2 年齢区分別にみると、「5歳以下」で「中等症」（入院を要するもの。）以上の負傷者が約86%を占め、重大な事故になっています。
- 3 5歳以下の事故発生状況を場所別にみると、「プール」では約57%、「河川」では約21%となっており、「プール」での事故は、「河川」での事故の2倍以上発生しています。
- 4 20歳以上の重症以上の発生要因をみると、「遊泳中に溺れる」では約69%、「飲酒後に遊泳し溺れる」では約13%となっており、飲酒していない人でも、重大な事故になっています。

※ 詳細は、別紙資料を参照ください。

今後も当庁では、心肺蘇生（AEDを含む。）や、けがの手当の方法を習得してもらうため、都民の皆さんや事業所等の従業員の方々を対象として、普通救命講習や応急救護講習などの応急手当の講習会を行っていきます。

問い合わせ先

東京消防庁（代） 電話 3212 - 2111  
生活安全課生活安全係 内線 4206  
広報課報道係 内線 2345～2349

## 過去5年間の水による救急事故の発生状況

### 1 海・河川・プールなどでの水による救急事故の発生状況

[過去5年間（平成17年から平成21年まで）の5月から9月までの5か月間]

#### (1) 場所別・年別発生状況 (単位：人)

	プール	河川	海	自宅	公園	計
平成17年	13	7	—	1	—	21
平成18年	3	4	3	—	1	11
平成19年	8	5	—	—	—	13
平成20年	6	8	—	—	—	14
平成21年	9	10	—	1	—	20
計	39	34	3	2	1	79

#### (2) 場所別・初診時程度別発生状況 (単位：人)

	プール	河川	海	自宅	公園	計
死亡	—	3	—	—	—	3
重篤	8	5	—	1	—	14
重症	7	1	3	—	—	11
中等症	12	12	—	1	1	26
軽症	12	13	—	—	—	25
計	39	34	3	2	1	79

(凡例) 重 篤：生命の危険が切迫しているもの

重 症：生命に危険があるもの

中等症：生命の危険はないが、入院の必要があるもの

軽 症：入院の必要がないもの

#### (3) 年齢区分別・年別発生状況 (単位：人)

	5歳以下	6～12歳以下	13～19歳以下	20～59歳以下	60歳以上	計
平成17年	4	6	3	4	4	21
平成18年	2	4	2	3	—	11
平成19年	3	2	2	3	3	13
平成20年	1	3	5	4	1	14
平成21年	4	1	3	10	2	20
計	14	16	15	24	10	79

## (4) 年齢区分別・初診時程度別 (単位：人)

	5歳以下	6～12歳以下	13～19歳以下	20～59歳以下	60歳以上	計
死亡	—	—	2	1	—	3
重篤	3	2	—	5	4	14
重症	2	2	1	4	2	11
中等症	7	4	6	9	—	26
軽症	2	8	6	5	4	25
計	14	16	15	24	10	79
中等症以上の割合	85.7%	50.0%	60.0%	79.2%	60.0%	68.4%

## (5) 場所別・初診時程度別発生状況（5歳以下） (単位：人)

	プール	河川	海	自宅	公園	計
死亡	—	—	—	—	—	0
重篤	1	1	—	1	—	3
重症	2	—	—	—	—	2
中等症	3	2	—	1	1	7
軽症	2	—	—	—	—	2
計	8	3	0	2	1	14

## (6) 重症以上の初診時程度別・発生要因別状況（20歳以上） (単位：人)

	死亡	重篤	重症	計
遊泳中に溺れる	1	7	3	11 (69%)
飲酒後に遊泳し溺れる	—	1	1	2 (13%)
ボールを取るために、深みはまり溺れる	—	1	—	1 (6%)
ウォータースライダーを滑って水中に入り溺れる	—	—	1	1 (6%)
救助に行き溺れる	—	—	1	1 (6%)
計	1	9	6	16 (100%)

## 2 水による救急事故の主な事例

- (1) 4歳女児が、流れるプールにおいて、水泳をしていたところ溺れ、水面に浮かんでいるのを監視員に発見された。

監視員がプールサイドに救出した後、他の監視員数名と客として来ていた医師と共に心肺蘇生を行った（重篤）。

- (2) 1歳男児が、自宅浴室において兄弟と水遊びをしていた。

親がその場を離れ、しばらくすると泣き叫ぶ声が聞こえたので見に行くと、1歳男児が仰向けに浮いていたため慌てて引き上げた（重篤）。

- (3) 30歳代男性が、友人数十人と昼頃から、河川敷でバーベキューを行い、サッカーボールで遊んでいたところ、ボールが川に落ちたため、男性がボールを取りに川の中へ入った際に、川の深みにはまり溺れた（重篤）。
- (4) 8歳男児が、小学校のプールにおいて、夏休み期間中に先生の監視のもとで水泳をしていたところ溺れ、水面に浮かんでいるのを同級生に発見された。  
同級生からの知らせを受けた先生がプールサイドに救出した後、他の先生と手分けをして、119番通報するとともに、人工呼吸及びAEDによる除細動を実施した（重篤）。

### 3 水による事故防止のポイント

- (1) プール等の監視員がいる場所でも事故が発生していることから、子どもが水の中や水のそばで遊んでいるときは、子どもから目を離さないようにする。
- (2) 川は、流れが緩やかでも急に深くなっていたり、水深が膝の高さでも流れが速い場所では、足を取られたりすることがあるので、川遊びをする場合は注意する。  
また、海では、浜から沖に向う強い流れ（離岸流）があることから子どものみならず大人も十分気をつける。
- (3) 川岸等でのキャンプや海、河川での遊泳は、気象状況に注意を払い、天候の変化に応じ中止するといったことにも配慮する。
- (4) 体調がすぐれないときや、飲酒後は平衡感覚が乱れたり心臓発作を引き起こす可能性があるため、遊泳を行わない。
- (5) 釣り等の遊泳を伴わないレジャーを楽しむ場合でも、ライフジャケットを着用するなど配慮する。

### 4 応急手当の講習会

当庁では、心肺蘇生（AEDを含む）、けがの手当の方法を習得してもらうため、普通救命講習や応急救護講習などの応急手当の講習会を行っています。

応急手当の講習会については、当庁ホームページをご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.tfd.metro.tokyo.jp/lfe/kyuu-adv/life01-1.htm>